

カスタムアクションからのバッチファイルの実行 (Express Edition)

検証したバージョン: InstallShield 2011 Express Edition

対象プロジェクト: Expressプロジェクト

概要

Express プロジェクトのカスタムアクションでは、EXE・DLL・VBScript 形式のカスタムアクションはサポートされていますが、バッチファイル(.bat)に関しては、直接実行することができません。この記事では、カスタムアクションよりバッチファイルを実行する場合の設定手順について説明いたします。

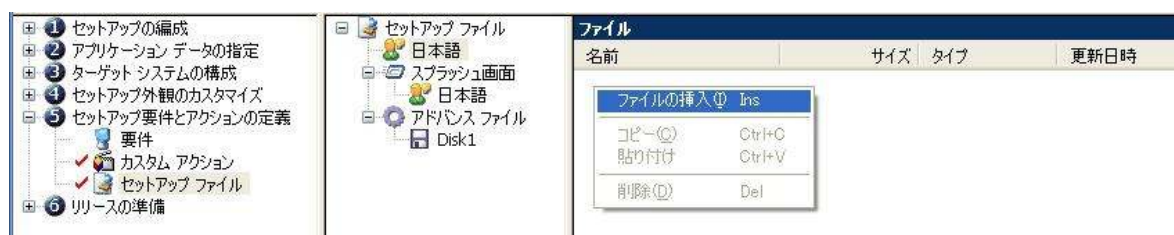
A) .bat ファイルをセットアップファイルとしてインストーラに含めます

“セットアップ ファイル”とは、インストール時にのみ必要となる外部の作業ファイルをインストーラに含める場合に使用する領域となります。この手順ではサポートファイルとして、msg コマンドよりメッセージ表示を行う “test.bat”を含めます。(test.bat は“msg * バッチが実行されました”と一行のみ記載されているシンプルな bat ファイル)

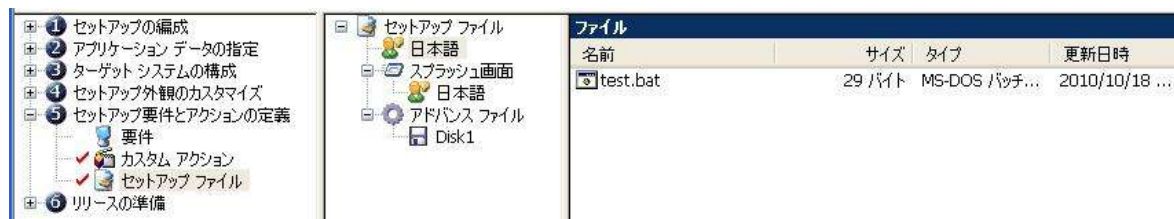
test.bat

```
msg * バッチが実行されました
```

- 1.[⑤セットアップ要件とアクションの定義]—[セットアップ ファイル]ビューにて、[セットアップ ファイル]のツリーを展開して、[日本語]を選択します
- 2.[ファイル]ペインを右クリックして、[ファイルの挿入]を選択します。ファイル選択のダイアログが立ち上がりますので、“test.bat”を選択します



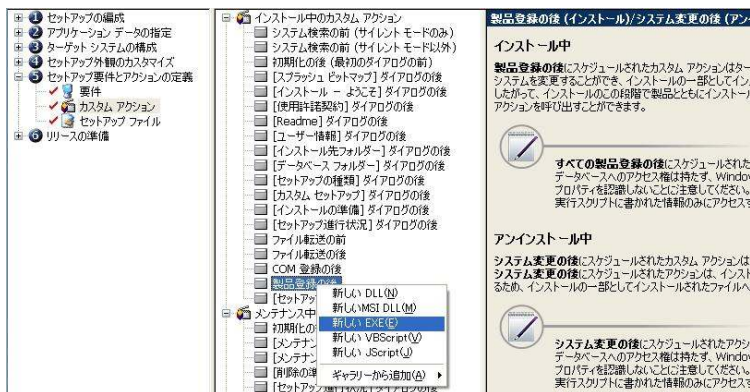
- 3.test.bat がセットアップファイルとしてインストーラに追加されたことを確認します。



B) .bat ファイルを実行するカスタムアクションの作成

次に、セットアップファイルへ追加した.bat ファイルを実行するカスタムアクションを作成します。

1. [⑤セットアップ要件とアクションの定義]－[カスタム アクション]ビューにて、[製品登録の後]を右クリックして[新しい EXE] を選択します。



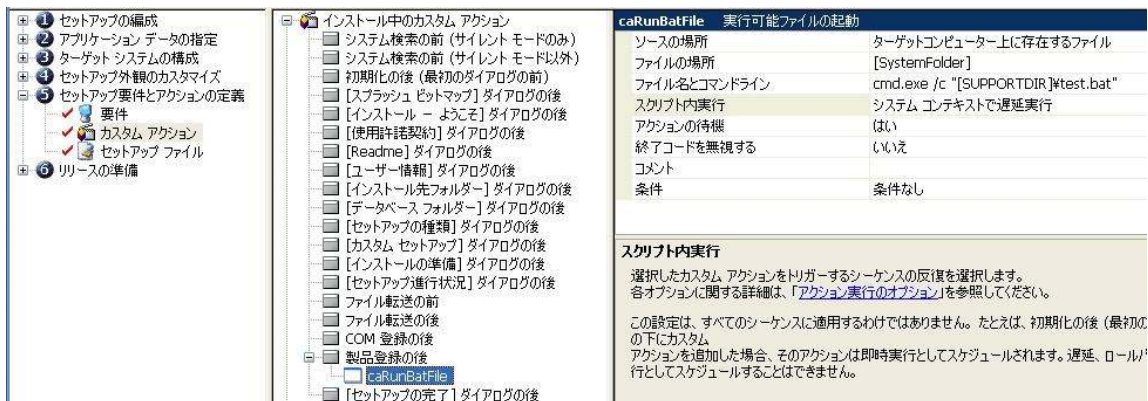
2. カスタムアクションの一覧に新規カスタムアクション「NewCustomAction1」が追加されるので、任意の名称に変更します。(この手順では「caRunBatFile」に設定)

3. カスタムアクション「caRunBatFile」にて、以下の設定を行います。

設定プロパティ名	設定内容	説明
ソースの場所	ターゲットコンピューター上に存在するファイル	
ファイルの場所	SystemFolder	ターゲットシステム上の cmd.exe を使用するため SystemFolder 識別子を使用して、system32 フォルダを作業フォルダに指定
ファイル名とコマンドライン	cmd.exe /C "[SUPPORTDIR]¥test.bat"	cmd.exe の引数として、SUPPORTDIR プロパティを指定してサポートファイル内の test.bat ファイルを指定
スクリプト内実行	システムコンテキストで遅延実行	Windows Vista 以降の OS では、システムコンテキストで遅延実行の設定を使います

※インストールファイルとして含めた.bat ファイルを実行する場合は、[INSTALLDIR]プロパティを使用して実行することも可能です。例: cmd.exe /C "[INSTALLDIR]test.bat"

4. カスタムアクションの設定が行えたことを確認します。



C) ビルド・実行

ビルドを行い、実行時の動作を確認します。

1. ツールバーの[ビルド]ボタンをクリックして(手順 2 の画像の赤い丸のついたボタン)ビルドを実行します。ビルドは[F7]キーからも実行可能です。
2. ツールバーの[実行]ボタンをクリックして、ビルドしたインストーラを実行します。(画像の青い丸の付いたボタン)



3. インストールを進めていくと、インストール完了ダイアログが表示される直前のタイミングで test.bat が実行され、msg コマンドによるメッセージ表示が行われます。

